

平成28年度

糸島市環境基本計画の進捗状況

糸島市環境基本計画の進捗状況（平成28年度実績）

糸島市では、平成23年3月に策定した前期環境基本計画の計画期間が、平成27年度をもって終了したため、平成28年3月に後期環境基本計画を策定し、5つの目標を掲げて、様々な施策等を講じ、目標達成を目指しています。

糸島市環境基本計画の計画指標（事業）は64件あります。平成28年度実績による事業の進捗状況は、次のとおりです。

【事業進捗状況の集計】

1. 全体的な事業進捗状況

進捗状況	事業数	比率（％）
達成（継続中）	15	23.4
着手済	45	70.3
未着手	4	6.3
計	64	100.0

2. 目標ごとの事業進捗状況

目標	進捗状況	達成（継続中）	着手済	未着手	計
1. 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する。		1	16	1	18
2. 糸島に息づく自然環境を保全・再生する。		5	13	1	19
3. 歴史、文化、自然とふれあえ快適な社会環境をつくる		5	7	0	12
4. 安全・安心な生活環境をつくる。		2	7	2	11
5. 協働の仕組みをつくる。		2	2	0	4
計		15	45	4	64

目標別の計画指標及び数値目標一覧表

【 進捗状況 : 達成(継続中) : 未着手 無印:着手済 】

目標1:地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する

1 - 1:3R・廃棄物の適正処理の推進

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	クリーンセンターへのごみ搬入量		生活環境課
2	市民の1人1日当たりのごみの排出量		生活環境課
3	ごみの資源化率		生活環境課
4	段ボールコンポスト補助基数		生活環境課
5	エコショップ登録店		生活環境課
6	行政区内資源回収拠点設置箇所数		生活環境課
7	ごみの減量やリサイクルの取組を心掛けている市民の割合(市民満足度調査)		生活環境課

1 - 2:低炭素社会実現の推進

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	糸島市内の二酸化炭素排出量		生活環境課
2	公共施設等の二酸化炭素排出量		管財契約課
3	地産地消を意識し購入している市民の割合(市民満足度調査)		農業振興課
4	地産地消販売額(直売所販売額)		農業振興課
5	「地産地消応援団」店舗数		農業振興課

1 - 3:再生可能エネルギー等の導入

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	住宅用太陽光発電買取件数		生活環境課
2	公共施設へのクリーンエネルギー設備導入施設数		生活環境課
3	防犯灯のLED導入基数		危機管理課
4	エコカー公用車の導入台数		管財契約課
5	水素ステーションの誘致箇所数		生活環境課
6	節電や省エネを心がける市民の割合(市民満足度調査)		生活環境課

目標2:糸島に息づく自然環境を保全・再生する

2 - 1:多様な自然環境の保全

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	荒廃森林整備面積		農林水産課
2	木の駅「伊都山燦」の木材集荷量		農林水産課
3	広葉樹の森の整備面積		農林水産課
4	水源涵養保安林等の指定区域拡大		農林水産課
5	担い手への農地集積率		農業振興課
6	水質調査箇所数		生活環境課
7	河川の平均BOD値		生活環境課
8	市街地や公園など生活環境に満足している市民の割合(市民満足度調査)		都市計画課・施設管理課
9	景観について市民の意識醸成のための研修会などの開催回数		都市計画課

2 - 2 : 豊かな自然の再生

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	汚水処理人口普及率		下水道課
2	農家戸数		農業振興課
3	認定農業者数(経営体数)		農業振興課
4	ふくおかエコ農産物認証制度認定者数		農業振興課
5	新規就農者数(平成22年度以降)		農業振興課
6	耕作放棄地の再生利用面積		農業委員会
7	広葉樹林化実施箇所数		農林水産課
8	森林の間伐面積		農林水産課
9	松林保全アダプト制度の登録団体数		農林水産課

2 - 3 : 生物多様性の保全

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	生物多様性地域戦略の策定		生活環境課

目標3: 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる

3 - 1 : 歴史的風土・文化の保全

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	怡土城跡保存修理工事の実施箇所数		文化課
2	新町支石墓群買上比率		文化課
3	神楽の保存団体数		文化課
4	無形の文化財の指定件数		文化課

3 - 2 : 環境教育・学習、環境保全活動の充実

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	環境学習プログラム数		生活環境課
2	環境家計簿登録者数		生活環境課
3	環境ボランティア団体向け学習会の開催		生活環境課
4	環境イベントの開催		生活環境課
5	食育に関する農業体験事業数		農業振興課
6	学生のための食農事業数		農業振興課
7	市民1人当たりの公園面積		都市計画課・施設管理課

3 - 3 : 自然、歴史とのふれあいの推進

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	自然歩道の整備延長		商工観光課

目標4:安全・安心な生活環境をつくる

4 - 1:地域美化の推進

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	春と秋の美化活動への参加者数		生活環境課
2	市の環境パトロールごみ回収量		生活環境課
3	不法投棄防止監視ネットワーク協力団体数		生活環境課
4	犬のしつけ方教室の開催数		生活環境課
5	空き地管理に関する指導件数		生活環境課

4 - 2:生活環境の保全

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	糸島市は住みやすいと思う市民の割合(市民満足度調査)		生活環境課
2	野焼きの苦情件数		生活環境課
3	水道水の利用に不安を抱えている市民の割合(市民満足度調査)		水道課
4	給水普及率		水道課
5	災害廃棄物の処理・処分計画の作成		生活環境課
6	災害時し尿収集・処理計画の作成		生活環境課

目標5:協働の仕組みをつくる

5 - 1:協働の仕組みづくり

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	出前講座等の学習会参加者数		生活環境課
2	「アグリコラボいとしま」主体の産学官連携事業数		農業振興課

5 - 2:環境情報の共有

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	環境情報サイト新着情報数		生活環境課

5 - 3:人材の育成と活用

	計 画 指 標	進捗状況	所 管 課
1	環境ボランティアネットワーク加入団体数(加入者数)		生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

■施策の方針 1-1 3R・廃棄物の適正処理の推進

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	クリーンセンター へのごみ搬入量	29,954トン	28,400トン	基準値より 5%減	30,485トン	30,641トン	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭系ごみの搬入量は横ばい状態に対し、事業系ごみが増加傾向にある。 ●事業所数の増加(特に新規大規模事業所)と企業活動の拡大によるものと推測される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比156トンの増加。 ○校区文化祭や出前講座でのごみ減量意識の普及啓発 …45回、4,644名参加 ○事業所紙資源回収事業参加事業所 …21事業所 	<ul style="list-style-type: none"> ●各種イベントにおいての家庭系ごみ減量の推進と事業系ごみの減量に向けて「事業所紙資源回収事業」の充実を図る。 	生活環境課
2	市民の1人1日 当たりのごみの 排出量	792g	750g	基準値より 5%減	811g	810g	<ul style="list-style-type: none"> ●「有価資源回収活動奨励補助金」、「資源集積倉庫等設置補助金」による紙ごみの資源化及び「ごみ減量化器材購入補助金」による生ごみの減量を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比1gの減少。 ○有価資源回収活動奨励補助金 …1,917,427kg、7,669,708円 ○資源集積倉庫等設置補助金 …3か所、529,400円 	<ul style="list-style-type: none"> ●紙ごみ、特に「雑がみ」の資源化及び「生ごみ」の水切り・堆肥化を重点に、可燃ごみ減量の普及・推進に努める。 	生活環境課
3	ごみの資源化率	26.0%	30.0%	毎年1%の 増	23.4%	27.1%	<ul style="list-style-type: none"> ●リサイクルセンターにおける不燃ごみの資源化、市民による有価資源回収活動及び牛乳パック・食品トレイ回収等の資源化に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比3.7%の増加。 ○クリーンセンター資源化量 …6,790トン ○資源(集団)回収量 …2,073トン 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみの分別の徹底と資源回収拠点の多様化に取り組む。 	生活環境課
4	段ボールコンポ スト補助基数	2,863個	3,837個	毎年5%の 増	2,774個	2,324個	<ul style="list-style-type: none"> ●校区文化祭や出前講座等の各種イベントにおいて「生ごみの堆肥化」によるごみの減量を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比450個の減少。 ○ごみ減量化器材購入補助金 …2,324個、1,093,100円 	<ul style="list-style-type: none"> ●JA糸島と連携した生ごみたい肥を活用する園芸講座の開催・充実を図る。 	生活環境課
5	エコショップ 登録店	—	30店	制度の創設	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●未実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○先進事例調査の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●費用対効果を含む内容の検討による制度の創設。 	生活環境課
6	行政区内資源 回収拠点設置 箇所数	44箇所	60箇所	基準値より 50%増	47箇所	48箇所	<ul style="list-style-type: none"> ●資源回収を推進するためには、倉庫等の拠点設備が有効であることから、「資源集積倉庫等設置補助金」を設け、行政区内への拠点整備を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比1箇所の増加。 ○資源集積倉庫等設置補助金 …3か所、529,400円 	<ul style="list-style-type: none"> ●資源回収団体活動の活性化・活動の継続性確保のための拠点整備に努める。 	生活環境課
7	ごみの減量やリ サイクルの取組 を心掛けている 市民の割合 【市民満足度調査】	79.7%	90.0%	基準値より 10%増	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●校区文化祭や出前講座でのごみ減量意識の普及啓発に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区文化祭や出前講座等各種イベントでのごみ減量意識の普及啓発に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●校区文化祭や出前講座等各種イベントにおいて、ごみ減量意識の高揚を推進する。 	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

■施策の方針 1-2 低炭素社会実現の推進

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	糸島市内の二酸化炭素排出量	628千トン (H24年度)	552千トン	毎年1.5% の減	618千トン (H25年度)	566千トン (H26年度)	●毎年、広報やホームページへの啓発記事の掲載やイベント内での省エネ等の啓発を行っている。また、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入による排出量削減に努めている。	○対前年度比52トンの減少。 ○広報掲載→2回 ○ホームページ掲載→10件 ○イベント内での啓発→2回(手をつなぐ市民のつどい、市民まつり) ○瑞梅寺ダム小水力発電所の整備	●排出量削減のため、平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、再生可能エネルギーの活用と省エネルギーを推進しており、引き続き計画を進めることで排出量の削減に努めていく。	生活環境課
2	公共施設等の二酸化炭素排出量	18,263トン	17,319トン	基準値より 5%減	17,252トン	17,385トン	●二酸化炭素排出量が、基準年と比較して約4.8%減少したが、平成27年度より0.7%上昇した。 ●夏場の猛暑による影響が大きい。	○共通行動計画に基づき、公共施設すべてで、冷房、暖房の温度管理を徹底し、経費の削減と地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出量を削減した。	●再生可能エネルギー導入計画に基づき、公共施設への再生可能エネルギー設備の導入促進を図り、二酸化炭素の排出量の抑制を図るほか、二酸化炭素排出係数が少ない電力会社への切替えを促進する。	管財契約課
3	地産地消を意識し購入している市民の割合 【市民満足度調査】	69.5%	72.0%	基準値より 4%増	-	-	●学校給食での地産地消の推進や地産地消応援団などの取組みもあり、前回調査では69.5%と高い水準になっている。 ●新たな食育などの取組みで、さらに、高い水準を目指している。	○ファームパーク伊都国を中心に、農業体験や食育イベントなど、地産地消の大切さを感じる事業を行い、地産地消の意識を高めた。	●意識改革であるため、今後も広報やホームページ等でのPRに取り組む。 ●PRできる機会があれば積極的に事業を行っていく。	農業振興課
4	地産地消販売額 (直売所販売額)	53億円	55億円	基準値より 4%増	57億円	55億円	●平成27年度は、プレミアム商品券の影響で、一気に57億円まで伸びたが、平成28年度は、55億円。 ●対前年比は別として、微増している。	○平成26年度から直売所の運営を支援するため、直売所施設活性化事業補助金を実施。	●直売所施設活性化事業は、今後も継続して実施する予定。	農業振興課
5	「地産地消応援団」店舗数	102店舗	120店舗	基準値より 20%増	99店舗	100店舗	●加入店舗もあるが、廃業店舗もあり、平成27年度より1店舗の増加にとどまっている。 ●広報紙やホームページ等を活用し、協力店舗に応援団への参加を呼び掛けているが、目標値にはまだ到達していない状況である。 ●飲食店は、開店から閉店までの平均的なサイクルが短く、伸び悩んでいる状況である。	○広報やホームページ等を活用し、協力店舗に応援団への参加を呼び掛けた。	●引き続き、飲食店等の開拓を行い、広報やホームページなどでのPRを強化しながら、地産地消応援団の協力店舗数の増加につなげていく。	農業振興課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標1 地球にやさしい生活を実践し循環型・低炭素社会を実現する」の主な事業

■施策の方針 1-3 再生可能エネルギー等の導入

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	住宅用太陽光発電買取件数	2,772件	3,500件	毎年120件の増	109件 (2,881件)	392件 (3,273件)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、住宅用太陽光発電設備の導入を推進しており、概ね順調に導入が進んでいる。	○国、県及び市ともに設備導入に対する補助制度がなく、また新たな推進策もなかったことから、広報等での啓発ができなかった。	●市民への啓発を強化し、設備導入につなげるため、住宅用太陽光発電設備の設置に対する補助制度の創設を検討する。	生活環境課
2	公共施設へのクリーンエネルギー設備導入施設数	16施設	21施設	毎年1施設の増	1施設 (17施設)	1施設 (18施設)	●平成25年3月に再生可能エネルギー導入計画を策定し、公共施設においても積極的な導入に努めている。	○瑞梅寺ダム小水力発電所(最大出力110kW)を整備した。	●平成29年度に公共施設48箇所への太陽光発電設備導入のための可能性調査を実施中。調査結果を基に、平成30年度から順次、導入を進めていく。	生活環境課
3	防犯灯のLED導入基数	743基	5,378基	毎年約880基の増	675基 (1,418基)	1,476基 (2,894基)	●実施計画のLED化事業で、ワット数の高い水銀灯や白熱灯950基程度をLED灯具へ改修している。	○実施計画事業により、937基をLED灯具に変更。 ○修繕や新規設置により、539基をLED灯具にて設置。	●実施計画の着実な実施により、LED灯具へと変更し、二酸化炭素排出量削減と電力使用量の削減に取り組む。	危機管理課
4	エコカー公用車の導入台数	3台	5台	基準値より2台増	0台 (3台)	0台 (3台)	●平成26年度にハイブリッド自動車1台をリースにて導入し、ハイブリッド自動車が累計2台と、地元事業者(明和製作所)から寄贈を受けた電動バイク1台となっている。	○平成28年度の買い替え対象の公用車については、エコカーの車種が無かったため導入を見送った。	●ハイブリッド車や電気自動車などのエコ公用車については、公用車買い替え等の際、補助制度等を活用し、また、費用対効果を見ながら導入を進める。	管財契約課
5	水素ステーションの誘致箇所数	0箇所	1箇所	1箇所誘致	0箇所	0箇所	●燃料電池自動車の普及促進のため、水素ステーションの誘致を行っている。しかし、平成28年3月に市近郊となる福岡市西区西都に整備されたため、近年中の市内への誘致が厳しい状況である。	○事業者が自ら使用する小型のステーションを設置する動きがあり誘致に努めたが、設置場所などの調整ができず実現しなかった。	●福岡県の水素関係部署や水素関連企業と情報交換しながら、できるだけ早い時期に市内に誘致できるよう努める。	生活環境課
6	節電や省エネを心がける市民の割合 【市民満足度調査】	80.2%	85.0%	基準値より5%増	—	—	●東日本大震災に伴う電力不足時の国を挙げた節電の推進により、市民の節電意識はかなり高まった状態にある。より多くの市民への意識の浸透に向け、広報やホームページへの啓発記事の掲載やイベント内での啓発を行っている。	○広報掲載→2回 ○ホームページ掲載→10件 ○イベント内での啓発→2回(手をつなぐ市民のつどい、市民まつり)	●広報やホームページへの節電・省エネ啓発記事の掲載やイベント内での啓発を継続的に行っていく。	生活環境課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-1 多様な自然環境の保全

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	荒廃森林整備面積	1,060ha	1,560ha	毎年80haの増	171ha (1,231ha)	256ha (1,487ha)	●木材価格の長期低迷により林業経営の採算性が悪化し、森林所有者の林業に対する関心は低下しており、林業の担い手の減少、高齢化により、間伐などの森林整備が遅れているので、福岡県の森林環境税を活用しながら、順次、荒廃した森林の整備を実施し、健全な森林づくりを進めている。 ●平成25年10月には、間伐材等の貯木場「伊都山燦」を開所した。	○福岡県の森林環境税を活用した間伐など256haの森林整備を実施した。	●今後も、森林環境税を活用しながら、水源涵養機能や土砂災害防止等の森林の持つ多面的機能を発揮させるため、荒廃森林の整備を進めていく。 ●現在、糸島型森林再生プロジェクトを立ち上げ、森林施業のサイクルの復活のために、森林保全の担い手育成、糸島産材の活用促進について取り組んでいる。 ●間伐材等の貯木場「伊都山燦」を拠点とし、間伐材の利用を促進する。	農林水産課
2	木の駅「伊都山燦」の木材集荷量	2,600トン/年	6,000トン/年	毎年560トンの増	5,987トン/年	5,718トン/年	●森林施業のサイクルを回転させるために糸島産材の受け入れ先となる木の駅「伊都山燦」を運営し木材流通体制を構築させる。 ●現在、糸島型森林再生プロジェクトを立ち上げ、森林施業のサイクルの復活のために、糸島産材の活用促進について取り組んでいる。	○公有林(一貴山財産区有林、市有林)や私有林の森林経営計画による森林整備により、間伐材等が森林から搬出され、「伊都山燦」に集荷された。	●「植える→育てる→収穫する(使う)→植える」の健全な森林サイクルを維持することで、森林の持つ公益的機能の発揮と森林資源の循環利用が可能となるので、サイクルの構築に取り組めます。	農林水産課
3	広葉樹の森の整備面積	18,430㎡	22,500㎡	毎年800㎡の増	4,100㎡ (22,530㎡)	6,600㎡ (29,130㎡)	●竹が隣接した森林に侵入・拡大し、荒廃している森林や樹木が枯死している森林など、森林としての公益的機能が低下しており、放置すれば公益的機能が損なわれるおそれがある箇所においては、広葉樹を植栽し、森林の再生を進めている。	○瑞梅寺ダムの水源区内で侵入竹林を伐採して、広葉樹苗の植樹を実施した。	●水源涵養機能や土砂災害防止等の森林の持つ公益的機能の向上のために広葉樹の森の整備を進める。	農林水産課
4	水源涵養保安林等の指定区域拡大	3,539ha	3,590ha	毎年10haの増	11ha (3,550ha)	0.1ha (3,550.2ha)	●森林が持つ水源涵養等の公益的機能を向上していくため、山林所有者の理解と協力を得ながら、保安林の指定区域を広げている状況である。	○山林所有者に保安林制度のしくみ等を説明し、保安林の指定区域の拡大に取り組んだ。	●今後も、水源涵養等の公益的機能の高度発揮を維持させるため、継続して保安林等の指定区域を拡大していく。	農林水産課
5	担い手への農地集積率	51%	56%	基準値より5%増	51%	56%	●農地集積円滑化事業、規模拡大加算交付金の活用により、利用集積される農地面積が増えた。	○農地所有者の理解と協力を得ながら、市、地域(農区)、JA糸島が連携し、担い手への農地集積を進めた。	●今後も、地域、JA糸島などと協力しながら、農地中間管理事業の推進と併せて担い手への農地集積を進めていく。	農業振興課
6	水質調査箇所数	99箇所	100箇所	検査箇所数を維持	100箇所	98箇所	●市内の水辺環境監視のため、河川、溜池、地下水等の水質検査を年に一回、実施している。	○河川69箇所、溜池15箇所、地下水14箇所水質検査を行った。 ○地下水水質検査は、平成27年度2地点が基準値を超過していたが、平成28年度は1地点が基準値を超過していた。 ○河川水質検査は、平成27年度と比較して大きな変化はなかった。	●各地点とも平成27年度と比較して大きな変化はないが、溜池など閉鎖性水域に留意し、今後も継続して水質状況の監視を行っていく。	生活環境課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

7	河川の平均BOD値	1. 0 mg/ℓ	2. 0mg/ℓ以下	2. 0mg/ℓ以下を維持	1. 7 mg/ℓ	1. 0mg/ℓ	<ul style="list-style-type: none"> ●公共下水道・集落排水の整備や合併処理浄化槽の普及により、徐々にではあるが河川の水質は改善している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○河川調査地点69箇所、環境基準の生活環境項目であるBOD値の検査を実施した。 ○河川水質検査は、平成27年度と比較して大きな変化はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●快適な生活環境を確保するため、環境基準に適合するよう、今後も監視していく。 	生活環境課
8	市街地や公園など生活環境に満足している市民の割合 【市民満足度調査】	17. 2%	18. 0%	基準値より0. 8%増	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和50年代以降に設置した、公園の遊具の老朽化による劣化により、市民の安全が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊具等の公園施設の点検を専門業者に委託して実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●左記の点検結果に基づき、劣化度の高いものから修繕、撤去を実施していく。 	都市計画課 施設管理課
9	景観について市民の意識醸成のための研修会などの開催回数	0回	3回	基準値より3回増	0回	1回	<ul style="list-style-type: none"> ●景観計画策定においては、景観に関する市民の関心と理解が必要であり、そのための啓発活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福岡県都市計画協会と連携して、「まちの景観の課題と対策」をテーマに研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も研修会等の開催に取り組む。 	都市計画課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-2 豊かな自然の再生

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	汚水処理人口 普及率	88.1%	93.0%	毎年1%の 増	89.0%	89.4%	●計画的な公共下水道事業、農業集落排水事業、個別排水処理施設整備事業の推進により、順次、処理区域内の整備や処理人口が増加している。	○対前年度比0.4%の増加。 ○公共下水道事業、農業集落排水事業、個別排水処理施設整備事業の推進を行った。	●今後も、都市基盤の充実、快適な農村生活の充実、河川やため池などの水環境保全のため、計画的に公共下水道事業等を推進していく。	下水道課
2	農家戸数	2,145戸	2,040戸	基準値の 約5%抑制	2,145戸 (H26年度)	2,145戸 (H26年度)	●平成28年度実績は、5年毎に実施される農業センサスの最新の数値。 ●農家戸数は、5年間で280戸(11.5%)減少した。	○事業として、国の青年就農給付金のほか、新たな担い手就農支援事業や新規就農定着支援事業など、新規就農を促す市独自の支援事業を行った。	●農家アンケートを取り、市独自事業の見直しと周知を徹底し、新規就農者や新たな担い手を支援していく。	農業振興課
3	認定農業者数 (経営体数)	368経営体	380経営体	基準値より 4%増	4経営体 (372経営体)	5経営体 (377経営体)	●各種情報の提供や経営診断など、認定農業者また連絡協議会入会のメリットをPRしている。	○対前年度比5経営体の増加。 ○認定農業者連絡協議会の事務局として、研修会の開催支援等の組織運営を支援。 ○そのほか必要に応じ、農業経営等に関わる情報提供(郵送)を行い、融資情報やスキルアップ、会員間の連携を推進した。	●今後も、既存の認定農業者の経営継続を支援し、併せて、経営移譲をはじめとする、新規の認定農業者の育成を図っていく。	農業振興課
4	ふくおかエコ農 産物認証制度認 定者数	28戸	30戸	基準値より 8%増	20戸 (48戸)	1戸 (49戸)	●浜津地区の農家を中心に、複数の農家が制度認定を受けた。	○エコファーマー認定制度から、この制度への移行を推進した。	●安心・安全な農産物を求める消費者に応えるため、減農薬減化学肥料栽培による作物づくりが広く普及しつつあり、今後も引き続き、認定を増やすための取り組みを行っていく。	農業振興課
5	新規就農者数 【平成22年度以降】	83人	150人	基準値より 80%増	14人 (97人)	17人 (114人)	●JA糸島や市農業委員会、県普及指導センターなどと連携・情報の共有をしながら、相談・指導を行い、一定の新規就農者数を確保している。	○関係機関と連携して、新規就農合同相談会を開催し、就農・経営相談などを実施。 ○17人の新規就農者を確保した。	●今後も、JA糸島、市農業委員会、県普及指導センターなど関係機関と連携しながら、新規就農合同相談会を開催し、就農・経営相談を行っていく。	農業振興課
6	耕作放棄地の 再生利用面積	6ha	48ha	毎年7haの 増	4.48ha (10ha)	3.39ha (13ha)	●平成25年度より、農地への再生に対し国の交付金に加え、市が上乗せ補助を行っている。 ●事業を活用して、毎年3ha程度の再生が進んでいるが、目標面積には達していない。	○事業を活用して、3.39haの耕作放棄地が農地に再生された。 ○再生された約2haの農地での作付について、種苗、苗木代の補助を行った。	●引き続き、補助事業を活用した農地への再生を推進するとともに、昨年度より委嘱した農地利用最適化推進委員を活用して、発生防止活動に取り組む。	農業委員会
7	広葉樹林化 実施箇所数	6箇所	16箇所	毎年2箇所 植樹	1箇所 (7箇所)	2箇所 (9箇所)	●背振雷山系を走る広域基幹林道沿いを中心に、広葉樹林化にむけた植樹を市民団体と協働して行っている。	○平成29年2月に真名子木の香ランドにて市民協働による広葉樹の苗木を植える植樹祭を開催した。 ○市管理地において、企業と協定を締結し、広葉樹の植樹が実施された。	●今後も、市民協働での森林づくりに取り組んで、市民に森林に親しみ、森林の大切さを啓発する。	農林水産課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

8	森林の間伐面積	917ha	1,770ha	毎年170haの間伐	19.36ha (937ha)	16.69ha (954ha)	<ul style="list-style-type: none"> ●糸島型森林再生プロジェクトにより、国の美しい森林づくり基盤整備交付金や市の林業振興補助金等で補助しながら、間伐などの森林整備を行っている。 ●間伐材等搬出補助金制度を創設し、間伐材等の未利用材の利用促進を行っている。 ●森林組合に対して、間伐材の収集運搬用機械(グラブブル・フォワーダ)の購入補助を行い、作業効率の軽減や危険防止などを図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美しい森林づくり基盤整備交付金を活用した間伐や市の林業振興補助金等による間伐により、16.69haの森林整備を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●間伐作業は、森林環境税を活用した荒廃森林の整備と合わせ、国・市の補助金を活用し、水源涵養機能の保全、土砂災害防止等の多面的機能向上のために取り組みを進める。 ●間伐材等搬出補助金制度や貯木場「伊都山燦」を活用しながら、自ら保有する山を自ら管理する「自伐林家」の育成にも努めていく。 	農林水産課
9	松林保全アダプト制度の登録団体数	9団体	20団体	毎年2団体の増	3団体 (12団体)	0団体 (11団体)	<ul style="list-style-type: none"> ●松枯れの被害が平成22年から増加し、平成24年には甚大な被害となり、松林の保全のため、薬剤の散布や駆除を継続して実施している。 ●松林保全のため、アダプト制度による松林の清掃・美化活動を推進し白砂青松の再生に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の活動団体や大手企業などに登録のアプローチを行った。 ○アダプト登録団体により、福井ノ浜と幣ノ浜で、5.2haの松林の清掃・美化活動が実施された。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の活動団体や大手企業などにアプローチし、登録団体数を増加させ、松林の保全に取り組むことにより、松林の持つ公益的機能の回復に努めます。 	農林水産課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標2 糸島に息づく自然環境を保全・再生する」の主な事業

■施策の方針 2-3 生物多様性の保全

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	生物多様性 地域戦略の策定	未策定	策定	新規作成	未策定	未策定	●福岡県では、平成24年度に生物多様性地域戦略がされた。しかし、本市の生物多様性地域戦略の策定には至っていない。	○生物多様性地域戦略について、策定に対する調査手法などを所管課で調査・検討した。	●他自治体の策定状況調査や知識経験者等の助言を得るなど、本市での策定の方法、策定効果等について調査・検討を行い、地域戦略の策定方針を策定する。	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 3-1 歴史的風土・文化の保全

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	怡土城跡保存修理工事の実施箇所数	2箇所	8箇所 (H29年度)	全ての修理箇所を完成	2箇所 (4箇所)	1箇所 (5箇所)	●平成29年度は3箇所です工事実施を準備中。	○高来寺の1箇所において、土塁斜面の崩壊が危惧される地点の修理工事を実施した。	●遺跡の保護と危険個所の除去の両立を図りながら、必要に応じて事業を進める。	文化課
2	新町支石墓群買上比率	78%	100% (H28年度)	該当地域を全て買い上げ	85%	99%	●国の指定史跡である新町支石墓群を保存するため、国の補助制度を活用し、用地を購入し、1筆を除き買収を完了した。	○3筆(916.49㎡)の史跡用地を購入した。	●1筆の未買収地が残されたが、事業の進展には影響の少ない場所であるので買上事業は終了し、遺跡の保存活用計画の作成へ移行する。	文化課
3	神楽の保存団体数	2団体	2団体	基準値を維持	2団体	2団体	●市内に残っている神楽は、二丈福井の福井神楽、高祖の高祖神楽の二つである。いずれも、神楽保存会の有志により継承されている状況である。	○2団体の保存会に対し、後継者の育成等の支援のため、補助金を交付した。	●県或いは市の指定無形民俗文化財でもあることから、引き続き、教育委員会にて、保存・継承に向けた支援を行っていく。	文化課
4	無形の文化財の指定件数	6件	10件	基準値より4件増	1件 (7件)	0件 (7件)	●指定候補文化財を抽出、調査し、市文化財保護委員会の答申を得て、指定する。	○新規の文化財指定は行っていない。	●指定候補文化財の発掘に努め、必要に応じて、指定文化財に指定する。	文化課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 3-2 環境教育・学習、環境保全活動の充実

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	環境学習 プログラム数	1件	2件	基準値の 2倍	1件	2件	●ごみ減量のおはなし(学校用・大人用)と糸島市クリーンセンター施設見学のパンフレット・ビデオを作成し、出前講座や講習会などで活用している。	○学習プログラム(テキスト)を使用し、ごみ減量の出前講座やクリーンセンター施設見学を行った。 ○再生可能エネルギー関連の学習プログラムの検討を行った。	●世代に応じた学習プログラム(テキスト・施設見学)を改定・充実しながら、市民の環境意識向上のための講座などを開催していく。	生活環境課
2	環境家計簿 登録者数	385世帯	445世帯	毎年10世帯の増	65世帯 (450世帯)	126世帯 (576世帯)	●毎年、広報やホームページでの周知のほか、地球温暖化防止啓発イベントの中で登録を呼びかけている。	○広報掲載→1回 ○ホームページ掲載→1件 ○イベント内での啓発→2回(手をつなぐ市民のつどい、市民まつり) ○平成28年度は福岡県地球温暖化防止活動推進センターの協力を受け、啓発イベント内での呼びかけに力を入れたことで大幅な増加につながった。	●今後も福岡県地球温暖化防止活動推進員及び推進センターと連携を図り、登録者を増やしていく。	生活環境課
3	環境ボランティア 団体向け学習会の開催	0回	1回	新規開催	0回	0回	●生活環境課主催での、学習会・講座の開催には至っていない。 ●環境ボランティア活動に関する情報交換会を年に1回実施している。	○学習会の開催について検討を行ったが、開催には至らなかった。 ○平成29年2月28日に環境ボランティアネットワーク加入団体の情報交換会を実施。	●学習会の開催の必要性を糸島市ボランティアセンターと連携しながら、調査・研究に努める。	生活環境課
4	環境イベントの 開催	1回	2回	基準値の 2倍	1回	1回	●所管課が主導する環境イベントの開催には至っていないが、糸島市民まつりに環境ブースを出展し、リサイクルや環境に関する啓発活動を行っている。	○糸島市民まつり(10月1・2日開催)に環境ブースを出展し、ごみの減量及びリサイクルの推進や地球温暖化防止の啓発活動に取り組んだ。	●今後も市内で開催されるイベント等で環境ブースを出展し、ごみの減量・分別、リサイクル、省エネルギー等の環境に関する啓発活動に取り組んでいく。 ●市民団体主催イベントの支援、協力などを行っていく。	生活環境課
5	食育に関する 農業体験事業数	28事業	25事業	現状維持	24事業	24事業	●田植えや収穫体験のほか、一連の農作業を行う「まるごとコマ道場」等も実施。 ●収穫ウォークラリーなど市民参加型の事業を開催している。	○主な事業として、「糸島まるごと農学校」や「まるごとコマ道場」、「収穫ウォークラリー」などのイベントを実施した。	●今後も、多くの市民が参加できる農業体験事業を開催し、食育普及のために継続して取り組みを進めていく。	農業振興課
6	学生のための 食農事業数	2事業	5事業	基準値より 3事業増	2事業	2事業	●田植えや収穫等の食農事業を実施している。	○「まるごとコマ道場」の赤米アートの取り組みなどに留学生を含む九大生が参加。 ○田植えや収穫等の食農事業を行った。	●今後も、学生を対象に農業や食育の大切さを認識してもらう取り組みを計画しながら、継続して進めていく。	農業振興課
7	市民1人当りの 公園面積	6.59㎡	6.75㎡	基準値より 0.16㎡ 増	6.60㎡	6.59㎡	●全国・福岡県の平均水準を下回っていることから、憩いの場となる公園面積を増加させることが必要である。	○前年度より公園数は5件(開発行為4件、県道整備1件)、公園面積は1,205㎡増加したが、人口増により1人当たりの公園面積は0.01㎡減少した。	●目標値の達成のため、都市公園の新規設置を円滑に進める。	都市計画課 施設管理課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標3 歴史、文化、自然とふれあえる快適な社会環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 3-3 自然、歴史とのふれあいの推進

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	自然歩道の 整備延長	約41.2km	約42.6km	基準値より 1.43km 延長	約41.2km	約44.4km	<ul style="list-style-type: none"> ●市内10山に登山ルートを設定し、糸島の山歩きマップにて紹介。 ●約41.2kmの自然歩道を整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○糸島の山歩きマップ井原山・雷山編に羽金山を追加。自然歩道を約3.2kmを延長した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●登山ブームにより利用者が増加しており、既存の自然歩道の整備(管理)だけでなく、新たなルートの設定や整備を引き続き検討していく。 	商工観光課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標4 安全・安心な生活環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 4-1 地域美化の推進

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	春と秋の美化活動への参加者数	42,641人	46,500人	毎年1.5%の増	45,507人	42,799人	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の生活環境の向上を図るため、地域の環境美化活動を推進する。 ●市民へ周知し、各行政区や隣組単位で、地域の清掃活動を実施してもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比2,708人の減少。 ○春季参加者数:22,792人 ○秋季参加者数:20,007人 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の環境意識の向上につながっており、今後も啓発や行政区内での周知の徹底を図るなど、より一層の活動を充実させる。 	生活環境課
2	市の環境パトロールごみ回収量	94トン	80トン	毎年2.8トンの減(H28~)	99トン	108トン	<ul style="list-style-type: none"> ●不法投棄の通報による回収だけでなく、地域、団体、個人等による環境美化活動でのポイ捨てゴミや地域の草刈りが出た草等の回収も行っている。また、海岸漂着物の回収も実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比9トンの増加。 ○糸島市シルバー人材センターと社会福祉法人香月福祉会MUKAに環境パトロール業務を委託し、海岸漂着物、不法投棄物及び環境美化活動でのポイ捨てゴミや地域の草刈りが出た草等を回収した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年間を通じた環境パトロールと合わせ、市民や事業者、地域、不法投棄監視ネットワークなどとの協働により、不法投棄監視を行う。 ●広報やホームページを活用しながら、不法投棄防止の啓発を行う。 	生活環境課
3	不法投棄防止監視ネットワーク協力団体数	23団体	30団体	基準値より7団体増	0団体 (23団体)	0団体 (23団体)	<ul style="list-style-type: none"> ●広報やホームページを活用し、協力団体の募集を行っている。 ●地域の実情に詳しい行政区長にも、不法投棄を発見した時の通報をお願いしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報やホームページで協力事業者の募集を行ったが、登録の申込はなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●協力団体の拡大のため、広報・ホームページや商工会、各種団体への訪問などで募集活動を行う。 	生活環境課
4	犬のしつけ方教室の開催数	年1回	年3回	基準値の3倍	年3回	年3回	<ul style="list-style-type: none"> ●愛護動物(犬・猫等)に対する苦情が年間を通して後を絶たず、平成28年度も100件を超える相談があった。 ●特に近年は猫に対する苦情も多いことから、犬猫ともに飼い主の適正な飼養の啓発が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○狂犬病講座を1回、犬のしつけ方教室を2回開催。(共催含む) ○広報に飼い主の適正飼養啓発記事を2回掲載。 ○飼い主のマナーアップキャンペーンを2回実施。 ○動物愛護イベントとしていきいきフェスタ(共催)を行い、来場者は2,000名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も年3回を目標に、犬のしつけ方教室、動物愛護教室を開催していく。 ●苦情に関しては関係機関と連携しながら対応し、広報、HP、イベントなどを通して定期的に啓発をしていく。 	生活環境課
5	空き地管理に関する指導件数	約409件	約330件	基準値より20%減	約404件	約283件	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣住民からの相談が6月から10月頃を中心に多く寄せられている。 ●市からの指導がなければ雑草の除去を行わないなど、土地管理が受動的な所有者も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○対前年度比121件の減少。 ○5月に過去に指導した、空き地所有者等467名に対し、今年度の雑草除去の計画の提出を求める文書を送付した。 ○個別の相談に基づき、土地所有者に対して雑草除去等を指導する文書を送付した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●相談があった土地については、所有者等に対し、定期的な雑草除去を中心とした自主的な土地の適正管理を促していく。 	生活環境課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標4 安全・安心な生活環境をつくる」の主な事業

■施策の方針 4-2 生活環境の保全

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	糸島市は住みやすいと思う市民の割合 【市民満足度調査】	70.2%	77.0%	基準値より6.8%増	-	-	●市内の森林や田園、河川、海岸などの豊かな地域資源を守るため、市民、事業者、行政など、地域全体での環境保全活動を進め、潤いと豊かさを与える快適な環境の形成が求められている。	○快適な住環境の向上のため、市民・行政・事業者・ボランティアなどと協働し、自然環境や生活環境、社会環境の保全を図った。	●校区や行政区を単位とした環境美化活動の充実・活性化を推進する。 ●広報やホームページ、出前講座、イベントなどとおして、環境保全に対する市民の意識向上を図る。	生活環境課
2	野焼きの苦情件数	約42件	約30件	基準値より30%減	約31件	約47件	●庭の木や枝、雑草、家庭菜園で出た植物性の廃棄物などの焼却行為は後を絶たない状況である。 ●住宅地域付近の田畑で、焼却禁止の例外とされる農業で行われる廃棄物の焼却行為に関する苦情が多い。	○対前年度比16件の増加。 ○広報での野焼き禁止記事の掲載に加え、個別の苦情に対しては、現地での指導を行っている。	●相談があった場合、現場に出向き、対象者へ注意喚起、指導を行う。 ●野焼き防止並びに意識向上を図るため、広報・ホームページを通じて、市民に周知する。 ●農業を営むための焼却行為は、JA糸島や市の関係部署を通じて、周辺地域に配慮しながら焼却するよう、お願いしていく。	生活環境課
3	水道水の利用に不安を抱えている市民の割合 【市民満足度調査】	8%	5%	基準値より3%減	-	-	●水道が整備されていない等、様々な理由で市民が不安を抱えている。	○水道ビジョンの実践・・・目指す方向性として掲げた「安全」、「強靱」、「持続」を実現するため、年度ごとに実施状況などを評価し、次へのステップアップを図った。	●上水道整備や施設の更新等を計画的に実施していく。 ●今後も施策や事業の取組を行い、これからも安全な水道水を安定的に供給し続けていく。	水道課
4	給水普及率	79.5%	86.4%	第8次拡張事業の計画値	77.9%	77.5%	●新規水道加入世帯は増加しているものの、平均世帯人数が減少しているため、給水普及率が低下傾向にある。	○水道整備の際、水道加入促進活動等を行い、普及率向上に努めた。	●水道のPRを行い、新規顧客の獲得による普及率の向上を図る。	水道課
5	災害廃棄物の処理・処分計画の作成	未作成	作成	新規作成	未作成	未作成	●災害廃棄物の広域処理を行うため、福岡市、唐津市との相互応援協力協定を締結している。	○国において、平成26年3月に「災害廃棄物対策指針」が策定され、これに基づいて、福岡県でも、平成27年度に「災害廃棄物の処理・処分計画」を策定された。 ○県で策定された計画を基に計画策定に向けた調査研究を行った。	●県の計画を踏まえ計画策定を進めて行く。	生活環境課
6	災害時し尿収集・処理計画の作成	未作成	作成	新規作成	未作成	未作成	●災害廃棄物の広域処理を行うため、福岡市、唐津市との相互応援協力協定を締結している。	○国において、平成26年3月に「災害廃棄物対策指針」が策定され、これに基づいて、福岡県でも、平成27年度に「災害廃棄物の処理・処分計画」を策定された。 ○県で策定された計画を基に計画策定に向けた調査研究を行った。	●県の計画を踏まえ計画策定を進めて行く。	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5-1 協働の仕組みづくり

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	出前講座等の 学習会参加者数	2, 8 9 1 人	3, 2 0 0 人	毎年2.5% の増	2,707人	4,644人	●出前講座や講習会での推進に加え、校区文化祭において、ごみ減量とりサイクル推進の普及啓発に努めている。	○対前年度比1, 937人の増加。 ○出前講座等…実施回数:27回 参加者数:1, 568人 ○イベント等…実施回数:18回 参加者数:3, 076人	●講座・イベント等の内容の充実を図るとともに、受講者・参加者の拡大ための周知を行っていく。	生活環境課
2	「アグリコラボいとしま」主体の産学 官連携事業数	8 事業	8 事業	現状維持	9 事業	4 事業	●農業者と市、九州大学、JA糸島、福岡普及センターが連携・協働し、それぞれの知識やノウハウを生かしながら、協議を行い、事業テーマを決めて実施している。	○土づくりをテーマとした講演会を中心に4事業を実施。 ○ワークショップ拡充を図る調査などを中心に活動した。	●農業者の悩みや疑問を集約する仕組みをつくり、それに応えられるミニワークショップなどの企画・開催を検討する。	農業振興課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5-2 環境情報の共有

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	環境情報サイト 新着情報数	9件	12件	毎月1件の 掲載	18件	22件	<p>●より多くの情報を掲載するよう、生活環境課内で意識付けを行い、環境に関する新着情報を掲載している。</p>	<p>○環境美化、環境ボランティア、自然環境、ごみ減量、リサイクル省エネルギー、再生可能エネルギー、地球温暖化防止に関する情報を掲載。</p>	<p>●市の環境の現状やイベントなどの関連する情報を、より多く掲載できるよう、継続して取り組んでいく。</p>	生活環境課

糸島市環境基本計画の進捗状況調査票

「目標5 協働の仕組みをつくる」の主な事業

■施策の方針 5-3 人材の育成と活用

No	計画指標	基準値 (H26年度)	目標値 (H32年度)	目標値の 考え方	27年度 実績	28年度 実績	現 状	平成28年度取組内容	今後の取組、方針等	所管課
1	環境ボランティアネットワーク加入団体数(加入者数)	13団体 (366人)	20団体 (560人)	基準値より 7団体増	1団体 (14団体) 20人 (386人)	2団体 (15団体) 61人 (447人)	<ul style="list-style-type: none"> ●2団体の加入があったが、1団体脱退したため、総数は15団体となる。 ●環境ボランティア活動に関する情報交換会を年に1回実施している。 ●環境ボランティア団体の活動を支援する事業を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平成29年2月に意見交換会を実施。 ○環境ボランティアネットワーク登録団体の2団体に対し、物品等を支給。 ○環境イベントや企業からの補助金情報について、登録団体へ周知。 ○加入団体を拡充するため、広報・ホームページで募集を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●加入団体拡充のため、広報・ホームページで加入を募る。 ●糸島市ボランティアセンター「こらぼ」と連携して、情報発信や会議を開催し、団体活動の活性化を図る。 ●ボランティア支援事業の活用促進を行う。 	生活環境課

※27年度及び28年度の実績欄の()は、累計数

計画指標の用語解説

	用語	解説
あ	アグリコラボいとしま	糸島農業産学官連携推進協議会の通称。糸島地域の農業者、九州大学、農業関係機関が集まり、産学官相互の交流を推進し、知的資源や地域資源を生かして糸島地域の創造と活性化に寄与するために活動中。
	アダプト制度	行政が、特定の公共財（道路、公園、河川など）について、市民や民間業者と定期的に美化活動を行うよう契約する制度のこと。アダプト（Adopt）とは、英語で「養子縁組をする」という意味。
	怡土城跡	糸島市と福岡市との境にある高祖山（標高416メートル）の西斜面一帯に築かれた古代山城の跡。
	エコカー	環境負荷の低減に配慮した自動車。
	エコファミリー	ふくおかエコライフ応援サイトやふくおかエコライフ応援BOOKで紹介される情報を参考に、家庭での電気、ガス、ガソリンなどの省エネルギー・省資源に取り組む家庭。
	LED	発光ダイオードの略。電圧をかけた際に発光する半導体素子のこと。
	汚水処理人口普及率	下水道、農業集落排水施設等及びコミュニティプラントを利用できる人口に合併処理浄化槽を利用している人口を加えた値を、総人口で除して算出した、汚水処理施設の普及状況の指標。
か	環境家計簿	家庭で使う電気・ガス・水道・ガソリンなどの使用量や支出額を集計して、二酸化炭素の排出量などの環境負荷を計算できる家計簿。
	神楽	神事でおこなわれる舞楽。
	環境情報サイト	糸島市のホームページで環境の情報を公開している場所。
	環境パトロール	不法投棄防止や環境監視のための巡回パトロール。散乱ごみの回収や不法投棄防止のための看板の設置等を行う。
	環境ボランティア団体	環境美化や自然環境保全などの活動を行うボランティア団体。
	環境ボランティアネットワーク	糸島市内で環境美化や自然環境保全などの活動を行うボランティア団体の活性化を目的とした、情報交換や相互協力などのための組織。
	間伐	森林を育てるために森林に適度な光を入れ、木の過密化を解消するために木を間引く作業を指す林業用語。間引かれた木材は間伐材と言う。

	木の駅「伊都山燦」	糸島市が取り組む原木集積施設。
	給水普及率	水道事業を行う区域内の人口のうち、給水を行っている人口の割合。
	クリーンエネルギー	環境を汚染することのないエネルギー。太陽光、太陽熱、風力、水力、地熱を利用する発電など。
	クリーンセンター	糸島市のごみ・リサイクル処理施設。
	耕作放棄地	農林水産省の統計調査における区分であり、調査日以前1年以上作付がはっきりせず、今後数年間の間に再び耕作するはっきりした意思のない土地(農地)のこと。
	荒廃森林	森林内が暗く、地表の植物が少ない。過去に風雪害に会い、放置されている。竹が侵入しているなどといった森林。
さ	災害廃棄物	地震や津波、洪水などの災害に伴って発生する廃棄物。
	省エネ	「省エネルギー」の略。石油や石炭、天然ガスなど、限りあるエネルギー資源がなくなってしまうことを防ぐため、エネルギーを効率よく使うこと。
	新町支石墓群	糸島市志摩新町にある弥生時代の遺跡。
	水源涵養保安林	流域保全上重要な地域にある森林の河川への流量調整機能を安定化し、その他の森林の機能とともに、洪水、渇水を防止したり、各種用水を確保したりする保安林。
	用語	解説
	水素ステーション	燃料電池車に水素を供給するための施設。
	生物多様性	地球上の生物の多様さとその生息環境の多様さを言う。生態系は多様な生物が生息するほど健全であり、安定していると言える。
	節電	電気の使用量・消費量を節約すること。
た	太陽光発電	太陽光を太陽電池を用いて直接的に電力に変換する発電方式。
	段ボールコンポスト	竹パウダーや燻炭等の基材の入った段ボールに生ごみを入れ、微生物の力を利用して分解させる堆肥化容器。
	地産地消	地域で採れた農産物を地域の人たちが消費すること。地産地消の推進により、生産者と消費者の物理的、心理的距離を縮め、消費者ニーズに応えた生産や農業への理解を促進することが期待される。

	地産地消応援団	糸島産農林水産物を利用するという目標・意欲を持ち、「地産地消」に協力して頂ける店舗。
	出前講座	行政に関わる事業・制度について、市民の要請に基づき市職員が地域に出向いて説明会や講習会を実施する制度。
な	認定農業者	農業者が農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画を市町村が認定し、これらの認定を受けた農業者。
は	BOD	河川などの有機汚濁物質による汚れの度合いを示す数値で、水中の汚濁物質(有機物)が微生物により酸化分解されるのに必要な酸素量で表される。数値が大きいほど汚濁の程度が高いことを示す。
	ふくおかエコ農産物認証制度	化学合成農薬の散布回数(成分回数)と化学肥料の使用量を、ともに県基準の半分以下で生産する栽培計画を認証する制度。
	不法投棄防止監視ネットワーク	市内の協力事業者から、不法投棄を目撃したり、投棄現場を発見した際に、市へ通報いただき早期に発見する。また、営業車等に「不法投棄監視中」のステッカーを貼ってもらうことで、未然防止を行うための組織。
ま	無形の文化財	演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの。
ら	リサイクル	使い終わったものをもう一度資源に戻し製品を作ること。